

## ⑫実用新案公報 (Y2)

平5-40843

⑬Int.Cl.<sup>3</sup>

A 47 J 31/06

識別記号

庁内整理番号

A

⑬⑭公告 平成5年(1993)10月15日

請求項の数 1 (全3頁)

⑮考案の名称 コーヒー抽出器

⑯実 頼 平2-73193

⑮公 開 平4-32634

⑯出 頼 平2(1990)7月10日

⑯平4(1992)3月17日

⑰考 案 者 佐 戸 信 男 大阪府茨木市北春日丘春1丁目21番21号

⑰出 願 人 ハマヤ株式会社 大阪府大阪市中央区瓦屋町2丁目5番20号

⑰出 願 人 大日本印刷株式会社 東京都新宿区市谷加賀町1丁目1番1号

⑰代 理 人 弁理士 立川 登紀雄

審 査 官 鈴 木 恵 理 子

⑯参 考 文 献 実開 平2-130525 (JP, U)

1

2

## ⑰実用新案登録請求の範囲

カップ状の容器本体と、該容器本体の下に段部を介して連設された挽きコーヒーを収納する該容器本体よりも小径のコーヒー収納部を薄肉合成樹脂でもつて成形されているコーヒー抽出器において、該容器本体の下半分の周面部に縦襞を設け、該縦襞の上縁部に折目線を形成し、段部の外周縁部によりに環状凹溝部を設け、前記縦襞を設けた周面部をその上縁の折目線から容器本体の内側へ折り込んでコーヒー収納部を該容器本体の上部内周面部内へ収納せしめてなるを特徴とするコーヒー抽出器。

## 考案の詳細な説明

## (産業上の利用分野)

本考案は一人前の飲用に適したコーヒーが簡易に得られる嵩の低い使い捨てタイプのコーヒー抽出器に関するものである。

## (従来の技術)

一人前の飲用に適したコーヒーが簡易に得られる使い捨てタイプのコーヒー抽出器としては、実開昭51-18780号公報が知られている。

## (考案が解決しようとする問題点)

上記従来のコーヒー抽出器は使用時の形態と包装における形態とが同じであるため、1個づつ、あるいは数個をまとめて包装するいずれの包装形態においても包装材料を多量に消費し、包装

箱も大きくなるため、包装費や運送費のコストアップを招き、また、商品陳列、保管スペース等においても嵩張り著しく不都合である。

そこで、本考案では包装時には、偏平でコンパクトな形状に変形し、使用時には従来同様の形態となすことができるコーヒー抽出器を提供しようとするものである。

(問題点を解決するための手段)

本考案は熱湯を注入するカップ状の容器本体と、該容器本体の下に段部を介して連設された挽きコーヒーを収納する該容器本体よりも小径のコーヒー収納部を薄肉合成樹脂でもつて成形されているコーヒー抽出器において、該容器本体の下半分の周面部に縦襞を設け、該縦襞の上縁部に折目線を形成し、段部の外周縁部によりに環状の凹溝部を設け、前記縦襞を設けた周面部をその上縁の折目線から容器本体の上部内周面部の内側へ折り込み可能なし、包装時に、この縦襞を有する周面部を容器本体の内側へ折り込んでコーヒー収納部を容器本体の上部周面部内に収容された偏平でコンパクトな状態に変形でき、また、コーヒーを抽出するときは、コーヒー収納部を前記容器本体の下に押し出し復元できるようになったものである。

コーヒー収納部を容器本体内へ押し込んだり、押し出すことのできる柔軟性を有する本考案のコ

コーヒー抽出器を形成する薄肉合成樹脂としては、ポリプロピレン、ポリエチレン、ポリアミド等の汎用の熱可塑性合成樹脂が適用できるが、加工性等から、ポリプロピレン、ポリエチレン等のポリオレフイン共成樹脂が好ましく、また、その肉厚は0.3~0.8mm程度が良好である。尚容器本体は円筒形状に限定されるものではなく、例えば、角部をゆるい弧曲とした6角形、8角形等の多角形状としてもよい。

(作用)

縦襞は、該縦襞を形成した容器本体下部の外周部の円周長さの伸縮を可能にし、該縦襞部分に容器本体の内側への折り込み外力が加えられると、該部分の円周長が収縮する作用を奏する。また段部の外周縁部に設けた環状凹溝部は前記縦襞部分を容器本体の内側へ折り込んでコーヒー収納部を容器本体の上部周面部内へ押し込む時に生じる歪を環状凹溝に集中させて歪を吸収する作用を奏する。よつて、容器本体にねじれなどを生ぜしめることなくスムーズにコーヒー収納部を容器本体の上部周面部内へ押し込むことができる。また、容器本体内に位置せしめたコーヒー収納部に押し下げ外力を加えると、縦襞部が伸縮し、環状凹溝に集中している歪が解放されながら該コーヒー抽出部をスムーズに下方へ移動させることができ、形崩れを起すことなくコーヒー抽出時に必要な形態に復元させる作用を奏する。

(実施例)

以下本考案の実施例を示している図面について説明すると、薄肉なポリプロピレン樹脂製のカップ状の容器本体1の下部に水平な環状の段部2を介して所定量の挽きコーヒーCが収納されている容器本体1よりも小径のコーヒー収納部3が連設され、該コーヒー収納部3の上面及び開口3Aを備えた底面にそれぞれフィルター4、5が配設されてなるコーヒー抽出器6において、前記容器本体1の下半分の周面部に縦襞7を形成し、該縦襞7の部分を縦襞7の上縁部8から内側に折り込み可能としている。9は水平な段部2の外周縁部よりに設けられている環状凹溝であつて、前記縦襞7の存在する周面部を容器本体1の内側に折り曲

げることにより第1図に示しているように、コーヒー収納部3が容器本体1の内側に収納できるようになしたものである。符号10はコーヒー抽出時、段部がコーヒーカップの上面部に密着するのを回避するため下方へ小さく突出している膨出部を示す。

(考案の効果)

このように本考案は、容器本体1の下半分の周面部に縦襞7が設けられているので該縦襞部分に

- 10 容器本体の内側への折り込み外力を加えると該縦襞の収縮作用により上縁部8から容器本体の内側へ折り込まれる。また、この縦襞部分を容器本体内へ折り込んでコーヒー収納部を容器本体の上部内周面部内へ押し込む時に生じる歪は環状凹溝に15 集中するので容器本体にねじれ等を生ぜしめることなくスムーズにコーヒー収納部が第1図に示す如く容器本体1の上部の内側へ収納されてコーヒー抽出器の全体の高さ寸法が3分の1程度嵩低い偏平形状のコンパクトになる。この状態(第120 図)で1個づつ個別に、また、数個をまとめて包装するいずれの包装形態においても、包装が従来より著しく小さくなり、包装費や運送費が安価となり且つ運搬や保管、商品陳列等にスペースをとらず頗る好都合となる。そして、使用に際して25 は、コーヒー収納部3を下方へ押圧すると、縦襞部が伸縮し、環状凹溝に集中している歪が解放されながらスムーズにコーヒー収納部が容器本体1の下に押し出されるのでコーヒーカップ上に載置してコーヒー液の抽出作業を行うことが可能となる。

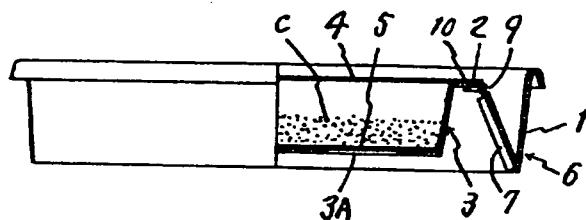
図面の簡単な説明

図面は本考案の一実施例を示したものであつて、第1図はコーヒー収納部を容器本体内へ押し込んだ状態における一部断面正面図、第2図はコ

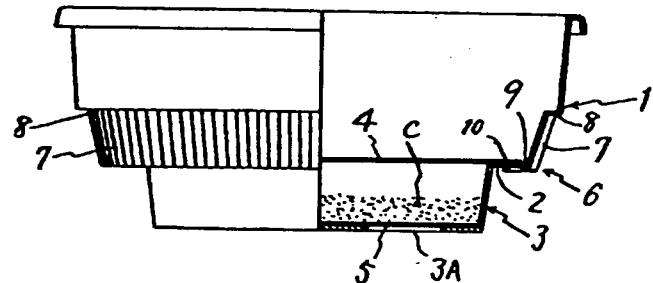
- 35 ヒー収納部が容器本体の下に突出している状態における一部断面正面図、第3図は第2図の底面図である。

- 1 ……容器本体、2 ……段部、3 ……コーヒー収納部、4、5 ……フィルター、6 ……コーヒー抽出器、7 ……縦襞、8 ……上縁部、9 ……環状凹溝。

第1図



第2図



第3図

